

小島ゆかり ◎ 歌人

辻原登 ◎ 作家

長谷川權 ◎ 俳人

半歌仙 『ドローン、 北京の空を飛ぶの巻』



昨年十月二十三日に神奈川近代文学館で、第十三回湘南連句座談会が開かれた。三人の選者の「発句」「脇」と第三から第六句に続けて、参加者が楽しみながら句をつけ、半歌仙十八句を巻き上げた当日の模様をレポートする。

北京秋天の空に…

長谷川 本日はお越しいただき、ありがとうございます。すでに表六句が巻き上がっているので、そのつけ筋からお話したいと思います。今回の発句は辻原登さんです。この不思議な句の解説をお願いします。

辻原 「ドローンかな? 北京秋天筋違に」。蕪村に「ほととぎす平安城を筋違に」という句があります。ほととぎすの声が夜の京の都を斜めに飛んでいく、そうした情景が元にあります。僕は昔、中国にいたことがあるのですが、北京の秋空の美しさは有名なものでした。PM2・5の今は、北京秋天の空を見られるかはわかりませんが、その空をほととぎすではなくドローンが飛んでいく。北朝鮮かアメリカか、どちらのものかわかりません……。

長谷川 続く脇が僕の句です。「高粱コウリヤンはたけを月遁走す」。発句が北京の町中だったので、郊外に目を移してみると畑が広がっている。その畑の上を月が渡っていくのですが、中国ですから遁走という言葉を使い、その月がドローンに追われて逃げていく感じで、昼から夜へ景色を移しました。第三の解説は、小島ゆかり

さんをお願いします。

小島 遁走すると、たちまち生活に困るんですよ(笑)。そこで月は生活をどうしようかと思いつつ、今は日中関係も難しいところにありますので、中国に長くいるのは不安。そこで日本にやってきて、生活のためささやかに働いています。けれど、なかなか生活は楽にならず、こんなところで終わってたまるか、と「夜勤明けオータムジャンボ買ひに行き」。古歌には、月を男として捉えて、月人と詠む歌があります。月人がそういう人生をたどっているドラマを考えました。辻原 そのオータムジャンボが当たったとしたら、隠さなくては。パナマ文書関連で多数のセレブのリストが流出しましたね。そういう話題もあったので、(四句目)「妻の名義のタックスヘイブン」とつけてみました。

長谷川 タックスヘイブンの島をイメージすると、税金が安いだけに、おそらく生活環境は昔のまま残されているでしょう。住民たちはいまだに豚の丸焼きなどを食べている。そこから浮かんだのが(五句目)「丸焼きの豚を包むにバナナの葉」。よく洗って内臓も取った豚をバナナの葉でくるみ、蒸し焼きに。昔ながらの島のよき風習を詠みました。

半歌仙 『ドローン、北京の空を飛ぶの巻』

〔初折の表〕

発句 ドローンかな? 北京秋天筋違に

登

脇 高粱コウリヤンはたけを月遁走す

權

第三 夜勤明けオータムジャンボ買ひに行き

ゆかり

四 妻の名義のタックスヘイブン

登

五 丸焼きの豚を包むにバナナの葉

權

六 イケメンゴリラに逢ふ夏休み

ゆかり

〔初折の裏〕

初句 エスニックカラーのドレスひるがえり

温峇

二 じゃあと言ってアイフォンを切る

穂璃

三 海底に眠りつづける海賊船

茜

四 富士頂上に雪ふりしきる

忠子

五 ブーチンの国に怪僧ラスプーチン

俊彦

六 鍛冶場に踊る天の一ツ目

響

七 胸像の行き先のなき倒産後

宏子

八 ただ寝転んで観る甲子園

茉里

九 サッカー部ジャージの穴もそのままに

千

十 新卒社員自らを知る

好祝

十一 花冷の駅でてんぶらそば噺る

一郎

折端 善根宿に巻く半歌仙

俊彦

初孫を得て春は過ぎゆく

ひろし